

文化庁

46. 6

月報

昭和46年 6月15日 発行

編集 文化庁長官官房庶務課

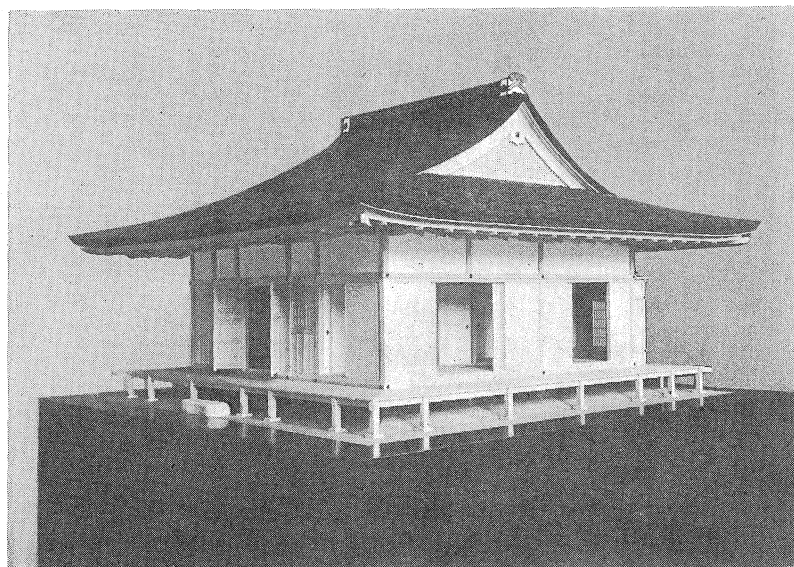
発行 東京都千代田区出が関3-2-2

電話代表 (581) 4211

郵便番号 100

第34号

(題字=今日出海 文化庁長官)



国宝慈照寺東求堂（10分の1模型）

文化庁設置三周年

特集号

▽写真でみる文化庁のあゆみ	2
▽国立歴史民俗博物館(仮称)基本構想の中間まとめの公表	8
▽国立飛鳥資料館(仮称)設置準備会	10
▽沖縄文化財指定調査	10
▽昭和46年度職害調査事務連絡会議開催	11
▽第一回飛鳥・藤原地域文化財保存整備協議会開催	11
▽古文書・民謡・仏像の保護	12
▽昭和45年度日本芸術院賞授賞式	13
▽優秀作品買い上げ選考委員決まる	13
▽ベルヌ・万国条約の改正	13
▽アルジェ大学会議に出席して	14
▽国立博物館・美術館だより	16
▽京都国立博物館	16
▽国立劇場七月公演	16
▽文化庁日誌	16

# 写真でみる文化庁のあゆみ

三年の月日

今

文化庁が開設されて、満三年になりました。早いものです。なにせ間口が広いもので、何かと用務難問多端で、それに忙殺されているうちに月日が経ってしまったようです。

私は派手に文化の仕事をするより、地方にある文化の根を強化し、培養することが大事ではないかと、就任の挨拶で述べましたが、なかなかこの地味な仕事の成果があらわらず、苦慮しているのが現状であります。それでも三年経てば一昨年より昨年、昨年より今年という具合に年々少しずつは伸展している、文化の仕事というものは、一見派手なようですが、実は



ているのは、ひとえに伝統の力であり国民の優秀性にあると信じて疑いません。文化庁は三年経って三歳になったにすぎません。大方の同情ある御支援を賜るよう願ってやまぬ次第であります。

際はまことに地味なもので、辛抱してゆっくり進む以外に道はないものだということが、身に沁みてわかりました。

## 文化庁発足

昭和四十三年六月十五日芸術文化の振興と文化財の保護をあわせ行なう国の行政機関として、旧文部省文化局と旧文化財保護委員会を統合して文化庁が設置された。初代文化庁長官には、今日出海氏が就任した。

## 青少年芸術劇場

若い人たちにすぐれた舞台芸術を鑑賞する機会を与えることによって青少年に芸術にふれる喜びを味あわせ、その鑑賞能力の向上に資し、ひいては国民の芸術への理解を深めさせる趣旨で、昭和四十



二年度から始められた。オペラ、オーケストラ、新劇、能・狂言、文楽の五分野三十数公演が、毎年文化庁と開催県の教育委員会との共催で開催され、十四歳から十九歳までの青少年を無料招待し、これら青少年に多大の感銘を与えている。

(写真は、昭和四十三年度オペラ公演「蝶々夫人」)

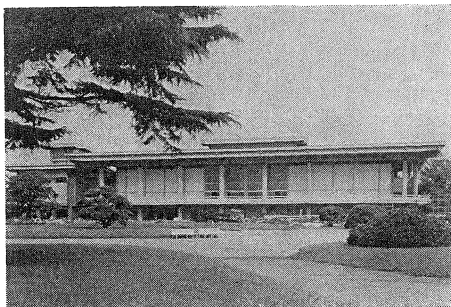


## 芸術祭

芸術祭は、すぐれた作品をひろく一般に公開して芸術鑑賞の機運を醸成するとともに、芸術家に意欲的な公演発表をうながして芸術の創造と進展に寄与することを目的として昭和二十一年度に創設され、以来毎年秋に開催されてきた。演劇、音楽、舞踊、能楽、大衆芸能、民俗芸能、映画、ラジオ、テレビ、レコードの十部門に分かれ、毎年度十月一日から十一月十五日までの間に文化庁が企画して行なう主催公演をはじめ、協賛公演、参加公演が多彩にくりひろげられる。なおこれまで実施してきた芸術祭地方公演は、昭和四十六年度からは移動芸術祭の

構想によってその飛躍的な拡充を図ることになった。

## 東京国立博物館東洋館開館



東洋館は、昭和四十年十月着工、同四十三年十月十一日開館。構造に近代建築の特徴をみせるとともに、内部の設備にも近代的博物館としてのさまざまな配慮がなされている。建物は展示棟と付属棟からなっており、展示棟の部分は地上三階、地下一階、付属棟の部分は地上三階、地下二階で総面積一万一千六百四十二平方メートル、平常展示室十室のほかに、地階に特別展示室五室を有するものこの建物の特色である。平常陳列の内容

は、日本を除く東洋諸地域、すなわち、エジプトから西アジア、南アジア、中国、朝鮮、西域にわたる歴史遺物および美術品のほか南太平洋各地の土俗品となっている。

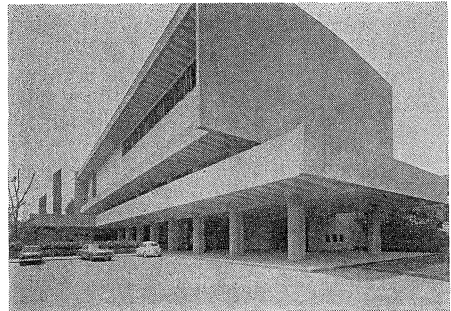
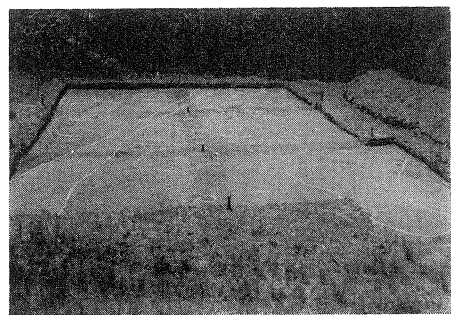
## 綾羅木郷遺跡緊急指定

本州最西端響灘に面する台地上にある弥生時代遺跡であるが、台地を形成しているのが良質の砂礫であるため、従来から採砂業者による採取が行なわれ、それに伴う発掘調査が行なわれていた。文化庁では、遺跡の重要性にかんがみ史跡指定の準備を進めていたが、指定に反対する採砂業者は、昭和四十四年三月八日突然遺跡破壊の暴挙に出たため、同十一日

急拠指定告示を行なった。その後業者は指定を不服として文部大臣を相手どり史跡指定取り消しの行政訴訟を提起し、現在係争中である。

## 東京国立近代美術館新館開館

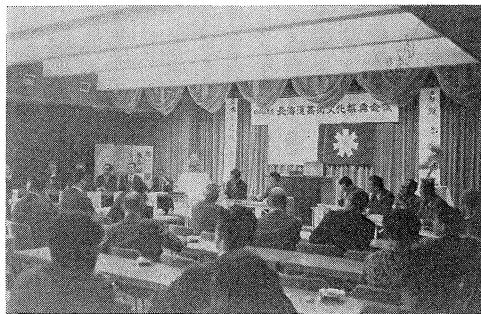
丸の内北の丸公園竹橋に所在する美術館新館は、石橋正二郎氏の寄贈によるもので、昭和四十四年六月十一日「現代世界美術展―東と西の対話」を幕あけとして開館した。開館以降は、施設の特徴を生かし、開館に際して行なったような、特別企画展示を行なうとともに、通常展示として「近代日本の美術」について陳列等を行なっており、また館外の事業としては、各地方文化施設との共催で、地



方巡回展を実施するとともに、美術師友の会の美術鑑賞あるいは各種見学旅行等の行事を行なっている。

### 第一回地方芸術文化振興会議開催

中央と地方および地方相互間の連携を密接にし情報を交換するとともに、芸術文化活動の現状と課題について各分野別に研究討議することによって芸術文化の振興をはかることを目的として、昭和四十四年に全国八ブロックにおいてその第一回会議が開催された。昭和四十五年の第二回に引き続き、本年は、芸術文化のほかに文化財の問題も含め、名称も「文化振興会議」と改め、全国七ブロックにお



いて開催する予定である。  
(写真は、東北、北海道地区の会議  
場四十四年七月五日)

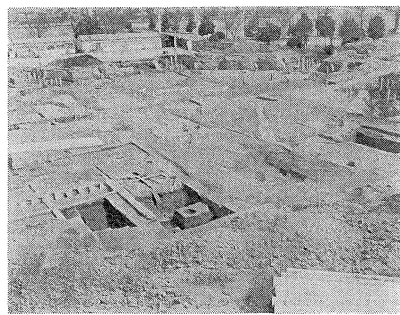
### 小笠原諸島学術天然記念物調査

小笠原諸島は、昭和四十三年六月二十六日が国に返還されたが、同諸島は、亜熱帯から熱帯の気候帯にわたって所在し、学術的に貴重な動植物等に富んでいることで著名である。文部省は、同諸島の学術的価値の究明とその研究の場としての利用および今後予想される産業開発に対する自然の保護を目的として、大学学術局、文化庁文化財保護部による調査を昭和四十四年七月五日から七月二十四日まで実施した。この調査および翌年五月



から六月にかけて行なわれた小笠原諸島天然記念物特別調査によって多数の動物等が天然記念物に指定され、または指定が決定されている。

### 津島遺跡の現状保存決定



岡山市いずみ町にある県営総合グラウンド一帯は、弥生時代の遺跡として著名な地域であるが、昭和四十三年五月、県はここに武道館建設を計画した。この遺跡の重要性に鑑み、以後翌年五月までの間、ついで三回の発掘調査が行なわれたが、その結果、この地域は弥生時代前期の水田耕作遺構を含み、歴史時代に及ぶ大規模な遺跡であることが明らかにされた。このため、果は、武道館を他の位置に建設するよう計画を変更し、当初

の建設予定地を中心とする約五万六千平方メートルは昭和四十六年一月五日史料に指定された。

### スイス・西ドイツ巡回日本古美術展

一九六九年八月から翌年一月にかけてスイス・西ドイツ巡回日本古美術展をチューリッヒとケルンの二会場で開催した。出品品目は、国宝十五件、重要文化財五十九件、重要美術品等認定物件二件を含む百十二件でこの展覧会は、両国においてまれにみる観覧者(有料入場者六万一千六百七十九人)を集め好評であった。欧米諸国において、日本文化に対する関心が高まるにつれて、各種の日本美術展が海外で開催されるようになり、文化



庁でも、国際文化交流を進めるため、各国の要望にこたえて海外古美術展を開催してきた。海外展は主要なものだけでもアメリカ四回、ヨーロッパ三回を数え、いずれも日本文化の紹介、国際親善に寄与するところが大きかった。

### 特別史跡多賀城跡附寺跡の発掘成果



多賀城は、奈良時代以来の古代朝廷の東北征略のための城柵と考えられてきた。ここにおいては、昭和四十四年宮城県多賀城跡調査研究所が設立され、二年間にわたる国庫補助事業による発掘調査が行なわれたが、その結果、内城地区や外城地区で火災のための数次の造営の事実が確認されるとともに、木簡も発見さ

れ、外郭が内城正殿の中軸線から西五町・東三町の方八町の瓦屋根を持つ築地塀であったことが明らかになった。これにより、多賀城は単に軍事的城柵だけではなく、大宰府にも似た政治的都城としての性格を濃厚に示し、日本古代史の通説に大修正を加えるをえなくなり、同時に今後の入念な発掘調査が期待されている。

### 文化政策に関する政府間会議

昭和四十五年八月二十四日から九月二日まで、イタリア北部の水の都ベニスで、ユネスコ主催の「文化政策に関する政府間会議」が開かれ、わが国から文化庁の安達次長と沢田国際文化課長が出席し

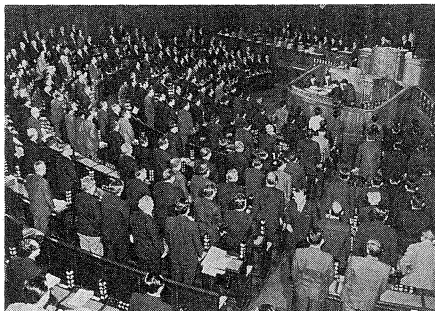


た。この会議には、世界八十七か国の文化大臣等四百余名が参加して、文化政策の諸問題を討議した。なかでも映画、テレビなどのマス・メディアの影響力と表現の自由の問題が特に活発に議論された。

なお、この種の会議は、世界最初のものであった。

### 著作権法の成立

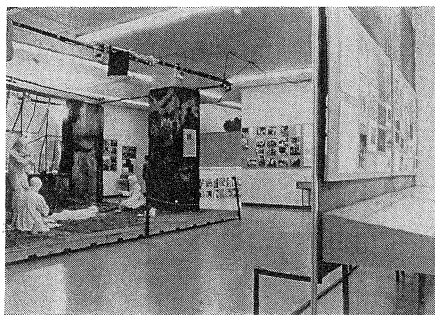
明治三十二年制定の旧著作権法が、七十年ぶりに全面改正され、新しい著作権法が、昭和四十五年四月国会で成立し、本年一月一日から施行されている。旧法と比較して、著作者等の権利の内容が詳細、明確になり、用語も近代的に



なった。題名は、著作権法だが、小説家、詩人、作曲家、画家の著作権のみならず、出版者の権利である出版権、俳優・歌手等の実演家やレコード製作者および放送事業者の権利である著作隣接権についても規定している。この法律によって、マス・メディアの高度な発達にも対応することができるようになり、また、国際水準からみても最新のベルヌ条約の水準にほぼ見合うものになった。

### 東京国立近代美術館 フィルムセンター開館

東京国立近代美術館にフィルムセンターを置くこととなったのは、昭和四十四年度のことであったが、その後、従来の





京橋の美術館の建物を改装して、開館式をあげたのは、昭和四十五年五月二十七日のことであった。

翌二十八日からは、開館記念日米交換映画祭として「アメリカ古典映画の回顧」を開催し、エジソンのころのものから、イントランス等を五十七日間にわたって上映した。

その後「成瀬巳喜男監督特集」「野田高梧特集」「フランス映画の歴史」「ドイツ映画の回顧」「田中絹代特集」のテーマのもとに上映を行なっている。

なお、二、三階の展示場には、日本映画史年表といったパネルのほか、撮影セット、撮影機械等を展示している。



原田のはやし田（民俗芸能の現地公開補助）



全国に多種多様に存在する民俗芸能は近時の急激な社会的経済的変容のために伝承がきわめて危惧される状態にいたっている。そこで文化庁では、昭和四十五年度から特に重要なものを記録作成等の措置を講ずべき無形文化財として選択し、その本来の姿において現地で公開するに要する経費の一部を助成している。昭和四十五年六月八日第一次として三十四件の民俗芸能が選択され、六月十四日、「原田のはやし田」が最初にこの措置を得て公開された。これは広島県高田郡高宮町大字原田に伝承されているもの

ち史跡未指定であった学校院跡、観世音寺および同寺子院跡約二十ヘクタールを指定して保護することが必要となったが、指定についての約四年間にわたる地元との交渉の末、昭和四十五年九月住民の一応の了解が付き指定の官報告示を行なった。

### 飛鳥・藤原地域の保存問題

飛鳥・藤原の地は、わが国が律令国家の体制をはじめ形成した古代史上特に重要な地域である。そこにある多数の宮跡をはじめとする遺跡は、今日まで、往時をしのばせるに足る風土とともに保存されてきた。昭和四十五年春、ようやくこの地域に及びはじめた開発の波に対して、その保存問題が表面化して以来、総理大臣、文部大臣等の視察、文化財保護審議会、歴史的風土審議会による答申、閣議決定を経て、昭和四十六年度からは、具体的な保護施策が各方面から実施されることになっている。文化庁では、約五億円の予算で、史跡等の土地買い上げ、その整備、国立飛鳥資料館（仮称）の設置等を行なうことにしている。

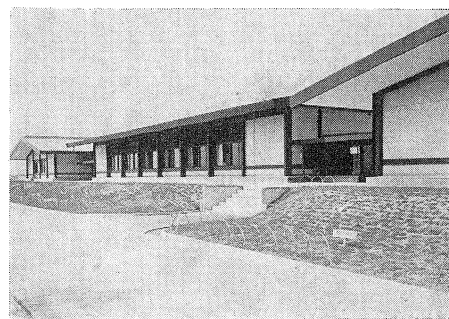
### 文化財保護法施行20周年記念式典

文化財保護法の施行（昭和二十五年）二十周年を記念して、昭和四十五年十一月五日午後二時から、国立劇場において記念式典が挙行された。この記念式典には、皇太子、同妃両殿

で、田植行事の際に多くの田植歌や囃子が奏される。

### 平城宮資料館完成

平城宮跡は、奈良の都の跡であり、特別史跡に指定されている。ここについては、昭和三十年度および昭和三十四年度以降の各年度にわたり、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部による発掘調査が行なわれ、昭和三十八年度以降は、宮跡内の民有地の国費買上げおよび整備等の保存事業が行なわれてきた。このたび、発掘調査成果の公開展示と調査研究のための施設として、同宮跡西端に出土品収蔵庫とあわせて資料館が建設された。



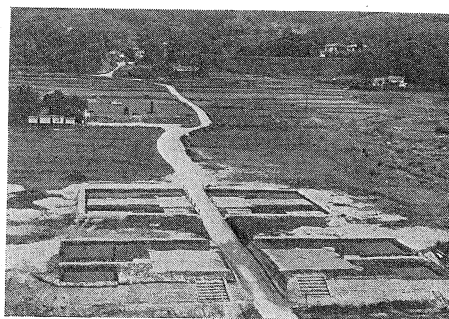
資料館・収蔵庫  
面積 一九四四・八㎡  
一五五二・八二㎡

工事費 約一億四、〇〇〇万円  
約六、一六〇万円

竣工 四五年三月三〇日  
四四年三月三〇日

### 大宰府地区史跡の広域指定

福岡県太宰府町を中心とする一帯は、太宰府跡、学校院跡、観世音寺および同寺子院跡、大野城跡、水城跡等の遺跡が所在し、古代の西日本の中心あるいは対大陸交渉の拠点であったところとして、平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡、多賀城跡などと並ぶ重要な地域である。これらのう

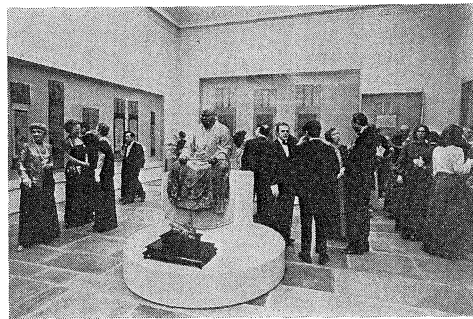


下の御臨席を仰ぎ、衆議院議長、参議院議長、日本芸術院院長をはじめとして国會議員、文化財保護関係者等約七百名が出席した。とくに皇太子殿下からは文化財保護にあたるものたちへの激励のことばを賜った。なお、この席上文化財功労者二百五十三名の表彰が行なわれた。



### ボストン美術館創立百年記念禅林美術展

海外展の一つとして行なれた禅林美術展は、岡倉天心以来わが国と関係の深いボストン美術館創立百年記念事業として、文化庁と同館の共催によって、一九七〇年十一月五日から十二月二十日にわたって開かれた。

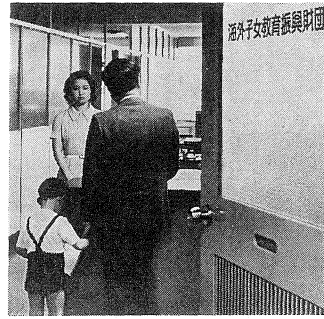


### 財団法人海外文化教育振興財団の設立

海外経済活動に関する民間有志が結束し、海外勤務者子女の教育に関し、政府の施策に協力し、すなわち所要の教育事

業を振興するため、昭和四十五年十二月十五日、外務省および文部省の共同所管になる財団法人海外子女教育振興財団を設立した。同財団が計画しているおもな事業は、全日制日本人学校等の援助、通信教育および教育相談の実施、帰国子女に対する補習教育、その他海外子女教育の振興に関する調査研究等である。

(写真は財団を訪れる父兄)



(サンケイ新聞社提供)

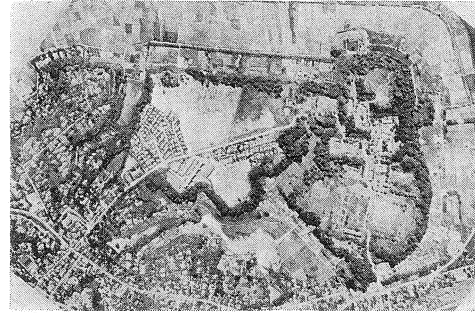
### 国立歴史民俗博物館(仮称)

#### 基本構想委員会等の発足

歴史資料および民俗資料の保護を図るとともにわが国の歴史と民俗についての知識と理解を深めることを目的とする国立歴史民俗博物館(仮称)は、明治百年記念事業の一つとして建設することが決定され、昭和四十二度から設立準備懇談

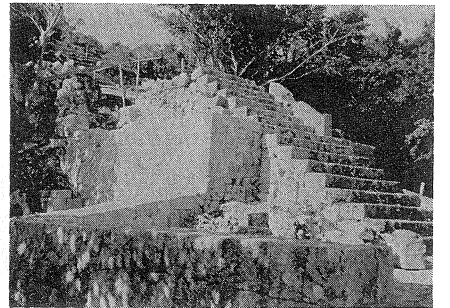
会の開催、外国の類似施設の調査等を行なってきたが昭和四十六年度には建設予定地千葉県佐倉市佐倉城跡の地上現形測量を実施するとともに、本年二月九日には、学識経験者による基本構想委員会を、次いで四月には展示計画委員会を発足させて、この博物館の性格、内容等について具体的な検討を進めている。

(写真は、建設予定地 佐倉城跡)



### 沖縄の文化財保護

沖縄の文化財は、戦前日本の文化財保護行政の一環として国宝保存法等により首里城正殿ほか十五件が指定保存されて



いたが、不幸にもさきの大戦によりほとんどが焼失した。

戦後(一九五四年)沖縄にも文化財保護法が制定されて保護措置が講ぜられ現在百七十一件の文化財が指定されている。

本土政府は、一九六〇年から専門調査官を沖縄に派遣して実情調査と技術援助を行ってきたが沖縄の本土復帰にそなえ、沖縄文化財の指定調査、西表島天然記念物特別調査を昭和四十六年度に実施する予定である。

(写真は、旧国宝末吉宮礎遺)